

I. 日 時：平成 24 年 5 月 24 日(木)午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

II. 場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷

III. 参加者：大原主査、松浦委員、西村委員、高田委員、斎藤トバ伊
企業トバ伊：バンダイナムスタジオ、日本アイ・ビー・エム、ネットマークス、
日立製作所、廣濟堂、オオ・コーポレーション
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. ICT を使った教育改善モデルについて

- ・ 情報を含めて 3 1 分野で改善モデルを検討することになっている。授業のデザインをしっかりとって、そこで ICT を効果的に利用する。大学で工夫はしているが、学びを通じて身に付けるべき「考える力」、「知識・技能を活用する力」、「社会への関与の力」などが備わらずに卒業し、大学が社会的な責任に十分こたえられていない。
- ・ 就職活動の問題、基礎力の低下で新しい指導要領が始まり探求学習などの学びに対応した 2 8 年度に向けた授業の仕掛けが出来るのではないかな。
- ・ 大学教育と専門専修学校学校の境目をしていく、専門と教養を兼ね備えたバネのある人をつくることではないか。教員の協力、科目編成、出口管理、未達成は補完するなど魅力のある授業や達成感が得られるような授業にすること、学生の成果を社会に発表するスパイラルな学びができないか
- ・ ICT を使ったイメージ、ネットを使って社会・世界の有識者の学びをデザインする。主体性・達成感のためには学生同士の学び合い・教え合いし、社会の関与を考えさせる。初年度の授業が終わっても 2、3 年になっても基礎基本の振り返り学習ができるものを考えたい。
- ・ 到達度評価のために、ネットで疑似環境での面接試験などでの達成度評価が必要ではないか。
- ・ 配布資料から、他の分野の改善モデルの内容が紹介された。社会を変わらせるような思いを持たせるような授業の仕掛けをする必要があり、就職でもキャリア的な発言ができるようになる。
- ・ 教員のチームワークではのプロデュース能力・プロジェクト能力の研修が重要。教育力は次の課題として A4 の 1 枚程度でまとめる予定。「専門性・見識・FD でどう補うかの設計」教員の教育力
- ・ 教育改善モデル、改善は描いたデザインに関してのカリキュラムの見直しまでの改善。教育と改善のモデルとしての理解か、現状分析してからのねらいとして記述している 5 年先をめざして改善のねらいの内容として記述している。1 つ 2 つの到達目標から 5 年先を目指して背伸びした記述にしたい。
- ・ 改善していくモデルのゴールの提案を「授業のねらい」から「学習環境」までに記述し、「授業の点検評価改善」はゴール設定の後、「授業運営上の問題課題」については、ガバナンスへの提案度のため。
- ・ 教育改善のための授業モデルとして理解して、今回はタイトルまでは変更はしない。

3. コンテンツ・サービス系学士力の考察について

- ・ アンケートの意見から、「発信者、制作者の立場」の表現を入れた。到達目標 2 の実用とエンターテイメントでは「それぞれに対応できる能力」という文章に変更した。到達目標 1 の芸術的感性と到達目標 3 のアート表現については、「創造的」に表現を変更した。到達目標 4 のコンテンツイノベーションは専門に移動した。
- ・ 「発信者、制作者の立場」の表現については、専門レベルの説明を記述していることもあり、文章的にそこまでいれない削ることにした。
- ・ 芸術の表現は「創造的」に変更で了承された。
- ・ 「測定方法」の見直しについて、筆記試験で把握できないものはレポートを含めたが、実習は参加すればよしとはならないので成果物の記述をいれたり、試験については客観式・記述式の表現を使った。制作は過程の理解が必要なため、プロジェクト・成果物で評価とした。今後の授業デザイン検討から測定方法は検討していきたい。実習（演習）による試験は課題遂行型の試験で、実習演習は実際には目標・課題が提示されているので明示。
- ・ サービスの言葉を追加（到達目標 2、到達度一般レベル①）、到達目標 4 到達度専門レベルで情報コンテンツの表現に変更した。
- ・ サービスの用語は、サービスは用益、コンテンツを使ってビジネスを展開することか。情報コンテンツ

をつかったサービス。サービスは生産流通消費のあらゆることに提示してはどうか、脚注をいれてここでのサービスを定義してはどうか。

- ソリューションの言葉も使っている。Web 関係でもサービスを利用しているか。情報コンテンツ提供開発になるか。就職の関係もあり Web 系のツールを使つての意味合いもあった。情報の流通サービスなどとしてはどうか、発信など。サービスは付加価値をどんどん増やせるのであらゆる手段になるので限定しないほうがよいのではないかと既定できないところに可能性がある。

4. 教育改善モデルについて

- 情報通信系モデル1として、到達目標3と設定し、ライフサイクルと技術の関連を理解することを目指す設定にした。PBLをやらせても真ん中のライフサイクルの理解が必要を考えている。
- できていない、リスクの高い授業として提案したい、背伸びしたものとして。プログラミング教育を否定してはどうか。品質とリスクなどではどうか。実現できるか、サービスでできるのか、上下のつながりジョイントのための授業の仕組みで他分野の学生に知恵を出し合つて創発的なものへ検討したい。

V. 今後の予定

- 教育改善モデルの案について、次回は「授業のねらい」「授業の仕組み」「授業にICTを活用したシナリオ」までを検討する。